

学園だより

平成31年3月1日発行

第85号

旅の良さ



校長 深江 政美

最近、飛行機を利用しての旅行が多くなった。搭乗時間の割には、遠く離れた所へ行くことが出来るようになった。旅では、未知なる異文化への見聞が開けたり、その土地ならではの風物に出会えたりと、楽しみは尽きない。

また空に星が瞬く早朝に到着する飛行機に乗ったことがある。海外の空港は、内陸の郊外にあることが多い。飛行機が着陸態勢に入ると、真っ暗な森の中に家の明かりが一つ、また一つと見えてくる。そのうちに、森の中の道を行く車のヘッドライトが動いているのが認識できるほどに高度が下がってくる。すると、森林に張り巡らされた道は血管に、先を急ぐ車は血管内を動く赤血球に見えてきた。大都会の市街地に隣接し、海からも近い日本の空港では、決してお

目にかかれない光景に、新鮮な感動を覚えたものだ。異文化体験の最初の一ページが開かれた瞬間であった。

訪れた国のそれぞれの場所で、その土地ならではの風物にたくさん出会えるのと言つまでもないことだが、レンタカーで道路を走るという、ごく単純な体験の中でさえ、それぞれのお国柄が垣間見える。スペインでは、初めて目にする道路標識に戸惑った。ニュージランドでは、日本と同じ様に左側通行であるのに、右折のルールが異なっていた。アメリカでは、道路の中央車線が左折車用に空けられている。何とも合理的なものだった。ロータリー形式の交差点にも、ずいぶん前に出くわし、感心した。カナダのある地方では、東に向かつて走っていると、道路標識が英語表記から突然フランス語に変わり、驚かされた。



平成30年度

学校行事

- 四月 2日 開校
- 4日 45期生入学式
- 五月 7日 3年生学外実習開始
- 六月 2日 新入生歓迎会（下関海峡館）
- 七月 21日 夏季休暇開始
- 九月 3日 開校
- 十一月 5日 全学年体育大会
- 十二月 20日 ゼミ研究発表
- 21日 医専祭
- 22日 冬季休暇開始
- 二月 20日 第65回国家試験
- 三月 6日 43期生卒業式

学校設立45周年記念 — 第6回同窓会開催 —

第6回美萩野臨床医学専門学校同窓会

定期総会・合同懇親会を振り返って



同窓会会長 仲 徹（5期生）

平成30年11月10日に第6回同窓会定期総会が行われ席上第5代同窓会会長に選出されました。同窓会会長としての責務を非力ながら努めていきたいと思っております。昭和52年に第1期生が輩出されてから今日まで卒業生数は約3,000名を超え、西日本各地は勿論のこと、全国各地に様々な形で、医療現場だけに留まらず活躍しております。本同窓会はこれらの卒業生に対して、平成6年11月27日に第1回総会・合同懇親会を開催いたしました。これは母校創立20周年を記念して同窓会組織としてこれまでの同窓生の交流の

場をさらに深めるために企画したものであります。以来開催時期を5年毎の定期開催と定め、卒業生全員を対象として参加を呼びかける事といたしました。合同懇親会にはお世話係として各期より当番幹事をお願いして総会对策委員会を設け、懇親会の企画や準備に当たって頂きました。懇親会に先立ち既に退職された恩師による講演会等を企画し、今回は利光央先生ならびに日高昭彦先生をお招きしてその当時の懐かしい教員生活や退職後のお話などを興味深く拝聴致しました。懇親会では当番幹事さんの呼びかけの努力により、

来賓招待者として理事長、理事、歴代学校長、現教職員、非常勤講師の皆様方、県技師会北九州地区長をはじめとして、180名近くの卒業生が集う盛大な懇親会を開催する事が出来ました。ジャズバンドの生演奏やそれに合わせての歌の披露、即興でのダンスありと賑やかな雰囲気のもと、恒例になった福引きで幕を閉じました。参加された卒業生の皆さん、また開催に奔走された役員をはじめ関係各位の皆さんに敬意を表します。母校とともに同窓会も次の時代へと飛躍していきます。これからの卒業生のご活躍を期待し、共に『同窓』としての絆を築いて行きたいと思っております。



第6回同窓会は平成30年11月10日にステーションホテル小倉で開催されました。『豊饒の間』での総会の後、利光先生、日高先生の大変ユニークな講演をいただき、大いに会場が盛り上がりました。その後会場を『飛翔の間』に移し懇親会が始まり、卒業年別に各テーブルに分かれ、久しぶりの再会に積もる話で笑い声が絶えませんでした。ステージではCDデビューもされたという卒業生によるソロの歌やジャズの生演奏もあり会場を和ませてくれました。第一期生から42年が過ぎ、還暦を迎えた先輩たち、社会に入った一年目の42期生までのこの学校の財産ともいべき同門の楽しい集いでした。



第53回日臨技九州支部

医学検査学会に当校より学生参加

平成30年10月6～7日に第53回日臨技九州支部医学検査学会が大分別府コンベンションセンターB-Con Plazaで開催されました。当学校から一般演題部門に3年生の倉永君、学生フォーラム部門のシンポジストとして3年生の豊沢さんが参加しました。その時のお二人の発表内容を紹介します。

一般演題部

鼻汁採取法の違いによる好酸球染色の比較

—スワブ法と鼻かみ法—



倉永 隆司 (美萩野臨床医学専門学校3学年)

【目的】

H27年4月より臨床検査技師の検体採取が採血に加え5つ追加された。そこで、血液ゼミでは鼻腔からの鼻汁採取の技術習得目的とともに、鼻汁採取方法としてのスワブ法、及び鼻かみ法での好酸球染色の比較を行った。

【検体・試薬】

検体の鼻汁と血液の採取については学内で同意の得られた学生、教職員より提供を受けた。試薬はハンセル染色液、ライト染色液、ギムザ染色液(武藤化学)を使用。鼻腔用滅菌綿棒(スワブ)と鼻かみ液採取用紙はデンカ生研株式会社製とアスワン(株)の薬包

紙を用いた。

【方法】

実験① 染色方法の検討。1. アレルギー性鼻炎の鼻汁にてハンセル染色、ギムザ染色及びライト染色で比較。2. 固定液は95%エタノール湿固定とメタノール固定で検討。3. 緩衝液のpHは6.4、7.2、7.4で染色性の検討を行った。

実験② 実験①の結果、染色の良好な方法を用いての検体採取法による検討。1. スワブ法 2. 鼻かみ法(鼻かみ液採取用紙と薬包紙)

【結果】

実験① 染色結果はハンセル液が最もきれいに染まった。しかし、

pH7.2のライト染色もハンセル染色に劣らない染色性を示した。従って実験②はハンセル染色とライト染色(pH7.2)で検討した。

実験② 鼻汁採取においてはスワブ法では採取量も少なく、痛みや違和感などが訴えられた。鼻かみ法は患者のタイミングで取れ、量も多く採取できた。紙は鼻かみ液採取用紙が処理はしやすかった。

実験③ 鼻汁および末梢血中好酸球数は相関した。

【考察】

今回、鼻汁好酸球染色について染色液と検体採取法による違いの比較検討を行った。従来は、ハンセル染色が用いられているが、pH7.2のライト染色でも染色性は劣らない結果であり、ライト染色液でも十分代用できるものと考えられた。また、スワブ法は、ウイルス検査や大人からの採取には適していると思われるが特に子供の場、染色に関しては簡便で無侵襲な鼻かみ法が適しているのではと推測された。

私がなりたい臨床検査技師 理想の検査技師に近づくために必要な素質



豊沢 新菜 (美萩野臨床医学専門学校3学年)

私が臨床検査技師を志したのは高校生のときでした。私の第一志望は山口大学の検査学科でしたが、センター試験の結果が及ばず、第一志望入学は叶いませんでした。そこで私が進路に選んだのが美萩野臨床医学専門学校への進学でした。進学校に在籍していたこともあり、最後は先生の反対を振り切るかたちで専門学校という道を選びました。そうまでして美萩野臨床医学専門学校を選んだのは、学校見学に行った際同じ高校の先輩である先生と出会ったからです。その先生はまたおぼろげであった臨床検査技師という職業の魅力を私に熱い口調で語っていただき、そのとき私の進路が固まりました。

1、2年生の基礎教育期間は只々座学を熟し、レポート書きに追われる毎日、入学時の臨床検査技師の魅力を感じるにはまだまだ程遠いものでした。しかし3年生になると講義一辺倒だった授業は学外での病院実習に移ります。私はそこで臨床検査技師の魅力を肌で感じる事ができました。実習病院では美萩野臨床医学専門学校の先輩も多く働いていらっしやうて、後輩である私に惜しげもなく指導してくださり、社会での同門の有難さを知りました。病院実習での毎日はこれまで私が想像してきたこと以上に失敗の許されない常に緊張感のある場所でした。検体部門ではルールに則った厳密な精度管理と検体取り違えを起こさない工夫のもとで、迅速かつ丁寧に検査が行われていました。また輸血検査では、血液製剤の入庫から出庫まで何重にも人とコンピュータのチェックが入

り、ひとつのミスも許されない作業を見学することができました。輸血という過程が最初の血液型検査に始まり不規則抗体検査、血液製剤の発注管理、交差試験、その後輸血、副作用までの一連を視野に入れた業務は学生の私には驚きそのものでした。

生理検査では検査技師の方が患者さんに応対する姿をみてさらに感銘を受けました。いろいろな障害をもつ患者さん一人一人に声掛けを行って、車いすの乗り降りの補助もされていました。生理検査という技術だけでなく、人を労わる心が自然と態度に溢れ出るその姿に私の将来像を見据えた気持ちになりました。

病院実習を終えた今、私は次のような事を考えました。学校で学んだ臨床化学、微生物学、病理学、免疫学、血液学、生理学などこれまではそれら学科が各々独立したものとしてしか映りませんでした。しかし今の私には一人の患者さんを診断、治療、経過という一連の医療行為において、臨床病理学という病態全体を把握するなかで自分の与えられた業務をこなしていくことがとても重要ではないかと考え始めました。私はこの夏

第一志望の病院に合格することができました。合格できたのは学び舎としての学校だけでなく、実習先での多くの先輩からの助言、自身で体験できた医療現場での貴重な経験によるものが大きいと考えています。

将来、私も認定技師として特化したものに挑戦したいと思っています。しかし、その部門だけに目を奪われることなく、常に病態像を視野に入れることのできる幅広い考え方と、医療技術者としてだけでなく常に労わりの心を持つことのできる技師として成長していければと考えています。そしてそれらが今考えます私の理想の検査技師になるための素質です。



一般・寄生虫ゼミ

(2年) 秋山 莉乃 岡崎 晴香 落石 杏紗 亀山 恵子
執行 玲綺 山田 あかり
(1年) 藤井 彩乃

アルコール固定虫体を使用してのPCRによる寄生虫同定について

1. アニサキスアルコール固定標本からの抽出DNAのPCRでは590bpのバンドが確認できA.s.*sensu stricto*と同定された。
2. 糸虫虫体アルコール固定標本からの抽出DNAのPCRでは375bpのバンドが確認できた。さらに虫種の鑑別のため制限酵素Ssp Iによる切断パターンで200bp, 125bp及び50bpの3つのバンドが確認でき、無鉤糸虫と同定できた。有鉤糸虫は322bpと50bp、アジア糸虫は199bpと174bpに切断される。寄生虫虫体が検出された場合は、速やかに凍結するか70%アルコール固定を行うことにより、PCRによる種の鑑別が可能となる。今回、シーケンスにて無鉤糸虫と同定された虫体のアルコール固定標本を用いてPCRを行い、良好な結果が得られた。今後はこれを陽性コントロールとして使用可能となった。

生理Ⅱゼミ

(2年) 安藤 妃由 木村 真宝 松岡 千夏
山田 菜々香 吉本 ゆりあ

健康寿命延伸に向けて～肺年齢と睡眠調査～

- ① 肺年齢は、非喫煙者に比べ喫煙者の方が平均13歳高かった。1秒率は、喫煙者78%、非喫煙者87%であり喫煙者ほど低い傾向であった。
- ② 日中眠気尺度 (PDSS) では、学生の11点以上(眠気が強い)が教官・事務5割に対して9割であった。学年別の睡眠時間は、1年生6.3h、2年生5.8h、3年生5.7hであり、理想の睡眠時間との差は、1年生1.2h、2年生1.8h、3年生1.9hであり、睡眠が足りていないと感じた。

今回の結果より20代の喫煙者はより肺年齢が高い傾向(+44歳)であり、将来を担う世代の禁煙の必要性を強く感じた。睡眠は9割の生徒が睡眠不足を感じていた。記憶力等にも影響する睡眠時間を確保するために生活リズムを見直す必要がある。普段意識せずに行っている呼吸や睡眠は軽視されがちであるが、喫煙や睡眠不足を長期的に放置することで息切れや眠気など日常生活に支障をきたす。健康寿命延伸のために、検査による疾患の早期発見、市民に対する疾患啓発が臨床検査技師の役割ではないかと考える。

平成30年度 ゼミ研究発表

(平成30年12月20・21日)



毎年冬季休暇が始まる前の恒例のゼミ発表会、医専祭が本年も12

月20、21日に開催されました。

これまでのゼミは2年生のみの活動でしたが、本年から1年生も参加できるようになり、半年の座学のための1年生には大変だったと思いますが、学年を超えた交流のなかで得るものがあつたのではと思っています。また、医専祭では初めての餅つきやお餅を丸めるのに大はしゃぎでした。

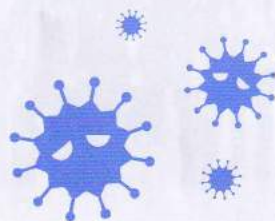
微生物ゼミ

(2年) 有吉 紗野 白石 葉月

食用肉の加熱条件の違いによる一般細菌の検出状況について

生菌数は「生」が多く、加熱により当然のように菌数は減少していた。黄色ブドウ球菌や *Campylobacter* 属菌は検出されず、*Bacillus* 属菌、*Lactobacillus* 属菌、*Escherichia coli* (大腸菌) などは検出されたが、病原性や薬剤耐性菌は確認されなかった。

生食用ではない市販の肉にある程度の生菌数の細菌が存在するが、過剰に意識する必要は無い。だが感染性腸炎や薬剤耐性菌の拡散防止において、身近な食品にも細菌は潜んでいることを再認識するきっかけになればと考える。



生理 I ゼミ

(2年) 田中 美実 馬渡 翔弥 諸石 雄太 堀口 貴之

体格差や性別などによる各臓器の描出に対する検討

肝臓が比較的体格差で相関性が伺えるが、確実なものではなく今回の計測では自分たちの思った結果は得られなかった。この事から各臓器の大きさには体格差や性別などによる相関性が無い事が分かった。

今回の各臓器に対する計測では結果が出なかったものの、臓器そのものの径だけでなく、体表からの距離等計測する対象を変えると関連性があったかも知れない。また、健常者を対象に計測したことも影響が考えられる。

記録として残す際の注意点

- ・肝臓では胃のガス、脾臓では肺のガス、腎臓では大腸のガスが描出の際の妨げになる為、呼吸の調節により臓器全体の動きを把握し適切な画像で描出する。
- ・体表と臓器に距離がある人は超音波が減衰する為腹式呼吸やアプローチの仕方に工夫が必要である。

病理ゼミ

(2年) 藤田 良輔 鶴留 真宝 稲田 真珠美
(1年) 安田 萌乃 岩本 拓巳 辛島 千春 西川 康一郎
平尾 拓巳 森川 千乃 山本 もえり

副腎細胞の形態学的検討—オスミウム固定による脂肪染色を中心に—

HE染色のみでは皮質の球状帯、束状帯、網状帯の細胞を明確に分類することは難しいと感じた。アンモニア銀を使った鍍銀法では、球状帯の細胞群は結合組織により円形状の境界線が見られた。束状帯においては、梯子状の連結した細胞配列を見て取ることができた。網状帯においては、個々の細胞の特徴は見て取ることができなかった。また、オスミウム酸を使った各層の細胞の詳細な脂肪沈着を検出することによって各層の違いを見て取ることができた。明らかに束状帯の細胞における細胞質内では脂肪沈着が極めて目立ち、それら細胞のステロイド産生のためのコレステロール合成機能を伺わせるものであった。これらの手法を組み合わせれば、十分に各層の細胞形態を分類することが可能であると考えられる。

本来、副腎髄質細胞はクロム親和性物質と言われている。しかし、クロム固定が日常行われないうちで、それに置き換わるものとしてマッソンフォンタナ染色は一部の髄質細胞に鍍銀効果が見られ有効であると考えた。

血液ゼミ

(1年) 佐藤 千尋 重兼 龍斗 白石 由佳
堤 廉太 長畑 堯海

血中・鼻汁好酸球数とIL-4・5・33との関係 ～自然アレルギー反応へのアプローチ～

鼻汁中の好酸球判定と末梢血中好酸球絶対数との間には昨年と同様に明らかな相関が認められた。

- ・鼻汁には好中球優位と好酸球優位とが認められ特に好中球優位の鼻汁中には細菌の出現・増加傾向を認めた。
- ・今回測定したIL4, 5, 33と好酸球、好塩基球との間には明らかな相関は認められなかった。しかしながら好酸球の増加には何らかの刺激因子が作用しているものと考えられ、今後更に検討する必要があると思われる。



輸血ゼミ

(2年) 池田 健浩 石川 幸正 木下 拓 松本 凌斗
米田 浩成 福原 優希 藤山 莉那

唾液を用いた血液型検査についてPart2

A型のヒトの唾液で判定できたのは76% (13人中)、B型では50% (6人中)、O型では100% (9人中)、AB型は2年生にいなかったため実施できなかった。

今回試した綿棒による唾液採取法で血液型判定は可能だった。この方法は試験管などの容器を使う方法より時間もかからず、被験者の抵抗感もないので有用だと思われる。今回判定できなかったものは非分泌型の頻度(20~30%)に近い数値であり、この場合O型と間違える可能性もあるので、できれば抗Hレクチンでの確認も検査に加えたい。





編集後記

本年度は開校45周年となりました。これまでに3000名以上の方達が学校を巣立っていき医療人として活躍されていると思います。まもなく巣立っていく43期生には頼もしい先輩として映るはずです。「同門のよしみ」は伝統校ならではの特色です。元号が変わるこの年に社会人となる君たちが次の時代の礎を築いていってくださることを願っております。



発行所
北九州市小倉北区片野
新町1丁目3番1号

編集責任者
美萩野臨床医学専門学校
後援会
TEL(931)5201(代)

印刷所
太平印刷株式会社
TEL(671)3233(代)